

会報

かわうそ 51号



[発行責任者]

清流球磨川・川辺川を
未来に手渡す流域郡市民の会

共同代表 緒方俊一郎 岐部明廣

熊本県人吉市南泉田町25-2 TEL/FAX0966-24-9929

2016年5月15日発行

川守としてのつとめ



川辺川にて 2015. 8. 9

昨年、人吉球磨の41文化財が「日本遺産」に認定されました。この「日本遺産」に球磨川が入っているのをご存じでしょうか。もしも川辺川にダムが完成し清流が失われていたら、球磨川の登録はなかったかもしれませんし、「日本遺産」への認定そのものがされなかった可能性もあります。

少しおもしろいのは、川という自然が文化財であるという点です。しかし人々が川に文化的な意義を感じたというような解釈もでき

そうだし、他の40の文化財の誕生の背景にも球磨川の恵みが大きく貢献していることは誰もが認めることですので、この認定を素直に喜びたいと思います。

手渡す会が川辺川ダム建設と五木ダム建設を中止に追い込み、人吉球磨の美しい自然環境を守る一助になったことは、会員の皆様一人一人の球磨川への思いの結晶であると、深く感謝いたします。

さて、このような時代になっても、国土交通省河川局は「治水」という名目で川を破壊することをやめようとしていません。川の恩恵を求めて川のそばに暮らすようになった人間は、川の領分に入り込みすぎた結果として時折洪水を体験するようになりました。その洪水を河道の中だけに閉じ込めてコントロールしようというのが河川局の「治水」という考え方のようです。しかも、一定の想定範囲の洪水を防御しようというもので、連続堤防やダムという構造物を構築しようという計画にいまだに終始しています。川は自然そのものです。いつも想定内の洪水を起こすわけではありません。近年の日本各地の実際の洪水がそのことを明らかに示しています。当然、ダムや連続堤防は被害を拡大させていますが、河川局は反省することなく、想定外の洪水であったとコメントするのみです。

私たちの会は、どのような洪水に対処するためには、川との共生の在り方を根本から考え直していかなければと考えています。今年も河川局の暴走抑止のための提言と、川の観察を中心に活動を行っていく予定です。適時ホームページ等で呼びかけますので、多くの人の参加をお願いいたします。

●2015年3月～2016年4月の出来事

15. 3. 21 川辺川ダム水没予定地に「五木源パーク」完成
 3. 24 国・県・地元自治体による「球磨川治水対策協議会」の初会合
 5. 21 人吉市長に「球磨川治水対策の早期実現」を要望
 6. 2 利水事業収束に向けた国・県・自治体の連絡会が開催
 6. 24 「球磨川タイムライン（事前防災行動計画）検討会」が発足
 7. 7 第2回球磨川治水対策協議会、ダム代替9項目の対策を確認
 8. 9 第2回「川って何だ 球磨川・川辺川に学ぶ」（川辺川にて）
 8. 12 熊本県に「球磨川治水対策協議会に関する要請書」を提出
 8. 31 第19回川辺川現地調査。120名参加（相良村総合体育館）
 11. 9 第3回球磨川治水対策協議会、「引堤」案など3案を公表。
 11. 17 県が五木村の瀬目トンネルの付替え工事に着手。
-
16. 1. 19 第4回球磨川治水対策協議会、「放水路」案など3案を公表。
 2. 2 球磨川治水対策協議会 第1回 整備局長・知事・市町村長会議

●球磨川治水対策協議会が引堤など6案を提示



球磨川治水対策協議会 2016.1.19

国交省と熊本県、流域12市町村で、川辺川ダムに代わる治水対策を協議する「球磨川治水対策協議会」がこれまでに4回開かれ、国交省はダム代替の検討対象としていた9つの具体策のうち、「引堤」「河道掘削」「堤防強化」「遊水地」「ダム再開発」「放水路」の6案の概要を提示しました。

同協議会は、昨年2月に終了した「ダムによらない治水を検討する場」での議論をもとに、昭和40年7月洪水と同規模の洪水を安全に流下させる治水安全度を確保するため、新設ダムを除く対策を検討する、としています。

人吉地点を例にとると、「検討する場」で積み上げた対策を実施しても毎秒5300トンの洪水が発生する。河道の流下能力は毎秒4000トンしかないので、毎秒1300トンの流量に対する対策が新たに必要であるとしており、これまでの「検討する場」等では示さなかった大規模な治水対策案を提示してきました。

驚くのが、「引堤」では今回の目標流量は毎秒5300トンであるにもかかわらず、討論集会で提示した目標流量・毎秒7000トンと同じ規模の改修後のイメージ写真を出してきたことです。目標とする流量が毎秒1700トンも違うので、当然拡幅の幅も半分以下で済むはずですが、これも、人吉に洪水の不安をあおるものです。理にかなったダム代替案が検討されるように、今後も同協議会の監視を続ける必要があります。

●第2回「川って何だ 球磨川・川辺川に学ぶ」



川辺川にて 2015. 8. 9

昨年8月9日、「子どもたちが楽しく遊べる球磨川・川辺川とはどんな川か考えよう」をテーマに、川辺川リバーサイドフォーラムを開催しました。遠くは福岡からの参加者を迎え、手渡す会の黒田弘行さんの講義を基に、川辺川数か所から汲んで来た水の透明度の比較や水生生物の観察などを行いました。参加者それぞれが思い思いの川遊びを楽しみ、子ども達の歓声が響く賑やかなフォーラムになりました。

【以下、参加者の感想から】

イベントがあった境田橋は、僕が小さいころから連れてきてもらった思い出の場所です。釣り好きのおじさんは、上流に市房ダムがある近くの球磨川ではなく、少し離れた川辺川の境田橋に連れてきてくれました。高校時代は、柔道部の練習が終わると、先輩と一緒に橋からパンツひとつで飛び込んで遊んだところです。今回、連れてきた子どもたちは川の魅力にひかれたのか、イベントそっちのけで勝手に川で遊んでいました。今回のイベントは、清流を子孫に残そうと決断し、行動した手渡す会をはじめとする地域住民の方々にあらためて深い敬意を抱く機会となりました。

●会計報告(2015. 1. 1~2015. 12. 31)

収入の部	金額	備考
繰越金	▲ 3 3 4, 8 5 0	
年会費・カンパ	6 5 8, 3 3 7	グッズの売上、雑収入なども含む
合計	3 2 3, 4 8 7	

支出の部	金額	備考
郵送費	6 2, 3 1 0	会報発送、資料発送
交通費	1 6, 5 0 0	高速料金、ガソリン代など
事務用品費	4, 3 1 3	紙代、文具代など
事務所維持費	1 5 4, 1 9 3	家賃、電話など
その他	2 8, 5 6 9	灯油代、ブックレット購入費など
合計	2 6 5, 8 8 5	

(収入) 3 2 3, 4 8 7 - (支出) 2 6 5, 8 8 5 = 5 7, 6 0 2

◇皆様のご支援のおかげで、今回、赤字会計から脱することが出来ました。心よりお礼申し上げます。年会費払込用紙（一口1000円）を同封させていただきました。手渡す会はこれからも息の長い活動を続けていきたいと思っておりますので、今後ともご支援・ご協力よろしく願いいたします。

川辺川にかける思い

弁護士 阿部広美



川辺川は、川そのものの美しさはもとより、その流域に残された自然、景観は、まさに熊本の宝とも呼ぶべきものです。

私は、高校時代を八代市で過ごしましたので、球磨川は私の思い出の風景の一部です。また、弁護士になる直前までは五木村の隣の八代市東陽町（当時の八代郡東陽村）に住んでいましたので、川辺川ダム工事によって村の風景が一変し、住民の方々の暮らしが翻弄される様子も目の当たりにしてきました。

ひとたび自然環境を破壊すれば、その回復には膨大な時間と労力が必要となります。そのように重要なことを、その時代に生きる一部の人たちの思惑に任せるわけにはいきません。

球磨川・川辺川とその流域の壮大な自然をそのまま残しつつ、そこに暮らす人々の暮らしを安心・安全なものにするために、あらゆる英知を結集し、治水・利水のあり方を検討していかなければなりません。

人よりコンクリートを優先する政治が、私たちが誇る豊かな自然を破壊することを目論んだときには、地域の皆様と連帯し、これを全力で阻止したいと思います。

また、ダム計画によって分断された地域の絆を取り戻すことにも取り組まなければなりません。現在の河川法は河川を単なる管理物のようにとらえており、自然環境も含め地域住民の手に取り戻すよう法改正にも取り組みたいと思います。

清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会の皆様のこれまでの闘いに敬意を表しますと共に、皆様と連帯して川辺川・球磨川とその流域の自然環境を将来に残し、地域の方々の豊かな暮らしに貢献していきたいです。

編集後記 7月に行われる参議院議員選挙に立候補を表明されている阿部広美さんが、手渡す会に寄稿いただきました。清流を未来に手渡してくれる政治家が一人でも増えるといいですね。先月の熊本地震で被災された皆様方に、お見舞い申し上げます。人吉では大きな被害はありませんでしたが、地震により市役所の建物が損傷し、閉鎖されました。これまで、ムダなダム建設などに税金が投入され、役所や学校、病院などの耐震補強を怠ってきたからではないのでしょうか。全てのダム建設予算を震災復興と公共施設の耐震補強に充てるべきです。(N. O.)